

子先居しんるさくお解一書れま
 のひつひつやとほれさうふあおん一を月は何
 してさぬまよふと夢に涙もさすしに涙あはる
 中のあつらひのこなる人書付のさぬいふ山のぬ
 けたおんこし山内にてひと日て日なぬ河原湯とい
 ふあしき人海一歩をぬまも今めりてさすま
 づい一せぬ海とさ人海と思ひたづり一あすお
 けやけいと昔もさしなす一はるにさす海を山を
 年月末より時やけたるふ子れさう一やけぬけく
 書あすのやけたのいづけちあきく書さうさく大いさ
 る火石二千三斗落ひ何れを改めさる上て屋下より

八龍の中にく打けひくくけちる書る七龍の火石
 飛ちるとひくく硫黄体あて泥押お一山御草木
 書あふさくや一と海りさ中火石もさす一七
 龍八龍の石も火持し何れをさの一けちると一
 のくやけせぬ泥のささ七龍も上ぬ川さ
 二龍もさすまともや泥埋もさ火石もあれ水もあは
 て死すも人死すもな一人半言も流れさうを死斗
 一や一死さすものも海もさ火石もあはる一けちる
 ありし書八龍の石は泥をはれ一人り一やあはるさきぬ
 く一涙死もさすも火石の輝く色使され何りく一と一
 既して下なるさすもさく大いさあはるさく一と一

るはふちや川よりなるなる橋北よりのあるなる
たかやまのりたのなるも此勢いゆきをひくく土ま何
すれ実をほりえき筋の村里悉く推ありー葉田変
しつ何とねるや山佐るみとよまの俵に押せしむる
なりとのや馬川もまきして柳敷北海もた^た新報川
の末を流るうみくり多や色ハあ湧かれくひき
ふつねてら田畑村里^をてをー國境うちやし
中麻のう海やとほくくーふ里おるに横切く中
仙道の南を流きや^す入くは中筋^福字^五料の^実
も松方ありまのふまてけもやーやーおみも々
ふか阿すう川北原とかる河存くした流め入江とぬて
きまふにまあくーま何の人の家集り三月下のり物
もくう尾まにかりをぬせありうねとふ物を流め
うちよぬせてその目きりまうたる水そのと雲の余
きやをぬれとも風れきすれ^い又もやあれますかとし
まをききー苗のきをさしてふ^の海^のき^をを^ぬた^は
あくくハハ水をたけり^しも^ふま^りを^ぬり^ても^はぬ
りけれハ^いく^くぬ^くぬ^くも^まり^えん^何も^ハ木^北橋
か^しく^は日^三百^ゆれ^たる^う次^年に^根く^うり^地を^打た^ふ
色^の底^のま^のも^あり^まや^紀の^ら地^のり^ん
二三^の下^を流^てあ^りた^余ひろ^ひた^も何^もと^も
葉^もあ^りま^のは^まれ^田畑^を失^ひた^もい^んけ^らぬ^い

おとよしと信も思又もさうもたしぬあふあふの十二
里う籠なれあてあうさうたすありあも何物大
き大船のちうひのあひます以上のあんとあふよ
みちに行て海へなるよりまたふと一言を目にあき
くまり月日の老若もやう移るに時くあぬり芳のと
くま灰折ちるいさあさうさうも底を伴とてや片
ぬんとあふよは海へ海へなる石砂と集あふ海山
さう一言のあふよさういあてあふさういあふさ
いとなる天妻のさういさや灰の海へさうい何千里とさ
きに水に持てりめくうなる遠九千里う籠はあふ
海へさういあふさういあてあふさういあふさうい
入江小何りさういあふさういあてあふさういあふさ
も小髪をさういあふさういあてあふさういあふさ
え何けうに泣に涙もはさあふさういあてあふさうい
いのみあふさういあてあふさういあふさういあふ
たあふさういあてあふさういあふさういあふさうい

天明四年甲辰十一月四日

菩提山隆範守書

以扶桑殘葉集所載一校

鳥居系譜 改平姓

鳥居其先出於穗積氏當維羅御宇內有穗積押山奉使
 於百濟其賜筑紫馬四十匹同六年冬百濟使者貢調別
 表請任那國上哆唎下哆唎毘陀牟事四縣穗積押山奏
 曰此四縣合賜百濟則固存之策也當推在御宇以境部
 臣為大將軍以穗積臣為副將攻新羅救任那兩將遂到
 新羅拔五城新羅主惶萃白旗到麾下割六城乞降詔遣
 使節於新羅任那檢察之新羅曰天有神地有天皇除此
 二神何亦有畏乎自今不攻任那每歲必朝於是兩將歸
 朝天武朝有百枝者已上見編年錄通鑑而有豐足定豐等已上延
同歲遠遠南倉院御宇有法眼道觀者建立熊野之一之
姓名相失

傳內依有父子不和之儀
住三州渡

華表世人呼曰鳥居道觀重氏相統為氏高倉院善其功勅賜
平姓源賴政叛逆時共藏人行家相約而為漆合戰棟梁
而駐新宮傳曰行忠法橋母六條廷尉為義娘後號鳥居
禪尼賜將軍教箇地頭職行忠恃恩私親押領其地承久
亂背母命屬官兵禦東兵行忠弟長誑法橋訴關東行忠
惶而潛行三州矢作庄渡里而右号渡里傳內忠氏家臣
氏木澤從此時相從處々拔忠儀傳曰禪尼憐行忠僕伶
慕之甚矣有警者謂禪尼曰我知行忠住蹤禪尼歡甚然
俾警者往三州矢作庄見忠氏下恐怖詐止夜竊捕警
者投井中俗謂忠氏枝葉有眼疾者其警為祟也忠氏子
重茂因幡守其子忠茂因幡守其子重俊源八郎其子重

勝三右衛門其子忠勝宮內少輔其子忠俊宮內少輔其

子忠由兵庫守其子忠景鳥居藤左衛門傳曰建武比号

勇力萃在口碑義貞戰死其子重政伊賀守其子重春伊

左龍居本國而潛改姓名賀守其子重實伊賀守其子重元久大

其子忠次久八郎其子忠明源七郎其子忠吉伊賀守忠

吉歷仕清康公康忠公家康公三代奉家康公抽忠貞勵

節義律有軍功聞見不詳故畧焉永祿年中歲齒八十

餘卒翰洞其子有三女三男宗子无忠彦右衛門无忠有

知有勇軍功間多永祿三庚尾州捕掇合戰时无忠出陣

元龜三壬家康公於斗力原與武田信玄相戰軍敗責元

忠拒于真籠有流矢中馬鞍前輪其地則信玄建旗之地

也。天正三年奉從家康公于長篠，敗勝賴軍矣。勝賴置城
主於遠州，諏訪原无忠欲窺見城中，鄉導而赴。諏訪原自
城中放鳥銃，中无忠股。家臣杉浦藤水郎扶退，故有足疾
矣。勝賴置榎田甚中郎右衛門卒於水相木栗田，其外都舍七
人於高天神城。家康公於遠州鹿島中村，小笠相坂相良立崗
處構岩急圍之。自甲州遣使於城中，促令戰。故自城中出
戰，城外兵无忠等奮擊，大得勝。榎田甚中郎右衛門逃去。同十年
作長家康公入甲州，无忠構陣於藤枝一宿，而后行軍。歷
駿州田中城，蘆田氏在守，作素之所處置也。以鐵炮擊无
忠兵，无忠馳馬赴城邊，携軍勢而退。是无忠之勇功也。无
忠赴駿州府中，經海濱時，自持船城放鳥銃，无忠軍中以
為山城故，益被疵者。无忠與水野藤十郎、松平玄蕃三宅
宗右衛門俱在甲府守番。其時小田原北條氏直遣筑井
城主内藤某北條佐右衛門佐赴甲州東郡，燒攻无忠。急
馳赴之，向在右衛門佐内藤某歸路，黑駒其及見敵兵三
分一，而无忠與水野藤十郎、松平玄蕃三宅宗右衛門相
謀，而北條氏直擊，追敗其軍，梟敵首于新府。家康公感那
軍功，賜甲州郡内於无忠。且命曰：是汝釵鋒之力也。小田
原氏直自西上野發，向信州。家康公聞入新府城，與氏直
對陣。已而和睦，為證和儀。授上州沼田於氏直。使木
導寺氏到甲州府中，真田安房守曰：此沼田城者，因我釵
刀之力，所領取也。雖為家康公命，不可授氏直矣。故家康

公使元忠及平岩七之介木久保七郎右衛門内膳
甲州曾根内匠蘆田氏保料彈正并伊井兵部少輔家臣木俣土佐等攻
之真由密謀而不意出戸石城雷鳴電擊隊長悉敗北元
忠退牽越川到吉田臺整旅士樹旗旌故真由見元忠旌
旗作勝鬨聲此時元忠家臣大澤竹兼衛用甚九郎小原
孫助鈴木又平郎中野太郎八尾海孫七郎新八等七八
人討死矣同十八年庚寅秀吉小田原進發時使淺野彈正
少弼木相常陸介梶原某攻關東諸城家康公使元忠并
本田中書平岩七之介請取關東佐倉土氣東金廳南諸
城其後諸將圍岩付城淺野彈正少弼長政本田中書忠
勝者向城面元忠及平岩七之介親吉向新郭木相常陸

介梶原者攻如和氣元忠乘入新郭欲取本城至隱居郭急
攻之敵兵拒戰元忠家臣安藤孫四郎寺由喜兼衛小田
切又三郎等廿三人殞命被死者七十人然元忠猶奮擊
不止矣城主北條十郎家臣伊達兼衛乞降而曰建華
表紋之旗士攻此城甚急也以故不能守城願以城授其
人也所謂華表紋之旗者元忠也時淺野彈正遂入其城
焉秀吉聞元忠軍功注進賜感狀矣家康公關東八州御
領知之時於下總國矢作庄所領四万石秀次發向奥州
九月部之時家康公率兵會之元忠奉供饗長五年上杉
景勝依不上谷家康公為御追討關東下向之時使元忠
留守城州伏見之城時本田中書少輔三成於上京方謀

時淺野彈正欲受城然及
聞城兵之言而元忠使人白
大權現曰可使彈正受之彈
正與元忠何有異乎故遂
遂入其城焉

叛使其徒攻伏見之城元忠力戰防之城中有二心者潛
引入逆徒惡黨窺內弦卒攻外八月朔日城中有火元忠
勵士卒曰失義苟免有何面目瞻先考於地下乎不若委
命於君力戰死俱死者不可救舉 杉浦河内 木澤竹
末衛 島尾權平 增下彦七 林權七 鋤植惣九郎
長屋彌十郎 井土甚内 鈴木六左衛門 朝正忠
本衛門 島山喜大夫 石野小次郎 石川長助 木
賀九藏 石田市内 增城佐傳次 榊原仁左衛門
馬場權四郎 柘植樂木 中村又藏 服部金内 高
次勝本衛門 牧彌次本衛門 長坂喜左衛門 周茂
本本衛門 川窪惣三郎 岡權三郎 松崎藤十郎

柴山三本衛門 島尾善十郎 平井九郎左兄弟二
人 倉新本衛 長坂源助 本多金大夫 木嶋金
兵衛 小原甚三郎 高須長九郎 一色久左右衛門
石川孫平 島尾佐助 加藤九郎本衛門 樋口三七
丁川茂本衛門 安藤甚九郎也等維時元忠六十歲每
有軍功家康公欲與賞功之褒書元忠辭曰我不可事二
君豈誇以褒書他人乎公使元忠受領元忠固辭而讓長
原忠政云先是本野原遠書等戰悉出陣遂一書焉
維時慶長五稔元忠逝歲蓋六十法名淵室長源

右以系因比較朱其異

先忠 彦右衛門尉

忠政

新太郎左京亮

天正十二年長久手合戰元忠守甲州郡内故忠政供奉合鍵擊敵得其首顯勇名慶長七年賜與刈岩城十萬石後加賜上野竹貫二萬石元和八年德虎殿賜出羽國最上郡二十萬石於忠政寬永三年加賜同國寒河江庄二萬石同年蒙鈞命叙從四位下同五年九月五日卒時年六十三法名峯山

成行 内路守

成勝

左太郎 主馬助

成次

久立郎土佐守

忠直

久大夫

成勝

久立郎

久之助

蒙皇德院殿之命為駿河亞相忠長卿家老

忠勝

左近

忠豐

瀨兵衛 弓空隱

新太郎

忠賴

美濃守 源七郎

女子

半兵衛

忠恒

左京亮

統忠政之家督賜前上二十二萬石寬永十三年七月七日卒年三十三法名鉄山

忠定

主膳正

忠恒逝去依在子忠定蒙家督之號改前上以賜信